

1. 膵臓移植レシピエント適応基準について

VI. 膵臓移植のための各種基準

3. 膵臓移植レシピエント適応基準

(移植関係学会合同委員会：平成 22 年 7 月 5 日)

(1) 対象

膵臓移植の対象は、~~以下の①、②のいずれかに該当する者であり、膵腎同時移植・腎移植後膵臓移植の対象は以下の①、膵臓単独移植の対象は以下の②に該当する者であり、~~かつ、該当者が居住する地域の適応委員会において長期間にわたる臨床データおよび臨床検査をもとに、適応ありと判定されたものとする。なお、レシピエントの評価をする際には、心血管機能と腎機能に十分配慮する必要がある。

①腎不全に陥った糖尿病患者であること。

臨床的に膵臓移植の適応がありかつ内因性インスリン分泌が著しく低下しており、移植医療の十分な効能を得る上では膵腎両臓器の移植が望ましいもの。患者はすでに膵臓移植を受けていてもよいし、膵臓移植と同時に膵臓移植を受けるものでもよい。

②IDDM 患者で、糖尿病学会専門医によるインスリンを用いたあらゆる治療手段によっても血糖値が不安定であり、代謝コントロールが極めて困難な状態が長期にわたり持続しているもの。本例に膵臓単独移植を考慮する場合もあり得る。

赤字・下線部改正

(「膵臓移植に関する実施要綱」(2010 年 12 月改訂) 移植関係学会合同委員会・膵臓移植中央調整委員会 26 ページ)

2. 膵臓移植適応判定申請書について

膵内分泌機能検索

(1) 内因性インスリン分泌能廃絶の証明*

尿中Cペプチド1日排泄量 (未測定 測定済み 年 月 日実施)
_____ $\mu\text{g}/\text{日}$

グルカゴン負荷試験 (未測定 測定済み 年 月 日実施)

	血糖値 (mg/dl)	血清Cペプチド (ng/ml)
0分		

6分		
----	--	--

その他の所見（例 膵全摘の既往、 OGTT 時のCペプチド低値など）

*尿中Cペプチドの測定は腎不全に陥る前に行われたもの。グルカゴン負荷試験を実施し、血清Cペプチドの測定には、原則として、高感度 Assay 系を用いること。グルカゴン負荷試験が実施できない場合は、食後2時間血清Cペプチドで代用できる。透析導入後、もしくは、腎不全患者（eGFR<30ml/min/1.73m²）で、透析導入前のCペプチドデータがない場合もグルカゴン負荷試験を実施すること。

- (2) 血糖管理の不安定性の評価※（膵臓単独移植を希望される場合のみ記載してください）

MAGE値 _____ M値 _____

~~（血糖自己測定による不安定性の表示でもよい。その際はデータを添付して下さい。）~~

現状のCGMによる血糖変動 平均グルコース値±SD _____ mg/dl ± _____ mg/dl

（48時間以上のCGM検査結果を添付してください。）

重症低血糖（他人の介助が必要）の頻度：年 _____ 回

無自覚低血糖の有無：（+, -）、頻度：年-月 _____ 回

その他 _____

※：膵臓単独移植の場合は血糖の不安定性が移植適応の判定基準に含まれます。従ってCGMデータの添付が必須になります。無自覚低血糖とは、①交感神経症状が認められないまま中枢神経症状を示す場合、②症状が無いにも関わらず SMBG の血糖値が40mg/dl未満の場合、のいずれかに該当する場合です。

血糖日内変動

CGM データ添付

赤字・下線部改正

（「膵臓移植適応判定申請書」（2015年3月改訂） 申-4）

平成28年11月17日